

せいめい小委員会報告

2023年3月15日光赤天連総会

せいめい望遠鏡の共同利用・共同研究及び研究交流等に関する専門的事項について審議する

メンバー (※ 委員)

泉浦秀行(国立天文台) 岩室史英(京大)※ 太田耕司(京大) 小西美穂子(大分大)※ 福井暁彦(東大)※
本田敏志(兵庫県立大：委員長)※ 前原裕之(国立天文台)※ 松岡良樹(愛媛大)※ 田實晃人(国立天文台)

- 2022年10月28日
 - 次期(2023A) 公募要領の確認、修正など
 - UMでの議論をうけて → (条件付きで) 大学院生のみでの観測を認める 観測当番制の具体的な検討を開始
 - 新装置受け入れの審査項目と審査のスケジュールなどを確認
- 2022年12月8-9日 (TAC)
 - 2023Aの共同利用はクラシカル10件(55.5夜)、ToO 15件(クラシカルと両方の2件含む) (72.5夜)の応募があり、審査委員の採点を基にして、クラシカル8件(51.5夜)、ToO15件 (37.5夜) を採択した。
 - 提出書類に不備がたまに見られるが、システム側での対応は難しいので案内時に注意喚起を行う
 - ユーザーが固定化されつつあるので、興味のある人は積極的に申請してほしい
- 2023年2月14日 (共同利用公開装置審査)
 - GAOES-RV (視線速度測定高分散分光器：P.I. 佐藤@東工大) の共同利用公開審査
→ 2023Bより共同利用装置として公開することを認める
- 2023年3月7日
 - 2023B (7~12月) Call for proposalの準備 (4月上旬に案内、5月連休明け締め切り予定)
 - キュー観測、自動観測、スクリプト観測、リモート観測などユーザーにも積極的に参加してもらい、対応可能な部分から実現していくことを目指す
 - 共同利用DDT (主にToO観測の補填に使用) の割当が難しくなっているため、クラシカル観測には事前に補填時間を含めることを検討中